

McAfee Endpoint Security に移行する5つの理由

McAfee Endpoint Security に移行する5つの理由

複数のセキュリティ エージェントやポイント製品を配備し、数多くの管理コンソールを使用するエンドポイント セキュリティは、持続的なアプローチとは言えません。こうした環境では、配備にも、調査にも、環境内での変更にも、多くの手作業が必要になります。エンドポイントの保護に6つも7つもの管理ツールやソフトウェア エージェントが必要になることはなく、また必要となるべきでもないでしょう。

今こそ、McAfee® Endpoint Security (ENS) へのアップグレードをお勧めします。McAfee の最新のクラウド ネイティブなセキュリティ プラットフォームを使えば、クラウド ファーストの EDR ソリューションと統合可能な、効率的、正確かつ高度な保護を実現できます。

以下では、エンドポイント環境を ENS へ移行すべき5つの理由を説明しています。

1. クラウド ネイティブなセキュリティのメリットを手に入れる

McAfee Endpoint Security は、クラウド ベースのセキュリティ対応策、行動分析、リアルタイムの脅威情報を活用して、軽いシステム フットプリントや効率性の高い脅威対策を実現します。ENS への移行により、組織の環境は SaaS ベースの単一のコンソールで管理が可能になり、また機械学習や人工知能といったクラウド ベースの防御策を利用することができます。つまり、オンプレミスの管理に必要なインフラ維持費やオペレーションコストを削減して、行動分析を用い

たゼロデイ脅威の検出機能を強化し、さらに EDR、CASB、Unified Cloud Edge ソリューションと統合させたクラウド ベースの対応を進めることができます。



軽量で統合されたクラウド ベースの検出と応答



クラウド サービス、ユーザー、デバイスの全体に完全な可視性を実現



デバイスからクラウドまでのデータを保護し、クラウドネイティブな脅威を阻止

McAfee Endpoint Security

McAfee は、これまで以上に完全でプロアクティブなエンドポイント セキュリティを提供しています。

- [McAfee® MVISION EDR](#)
- [McAfee® MVISION Insights](#)
- [McAfee® MVISION ePO](#)

McAfee へアクセス



2. 高度な機能

ENS と統合する高度なツールを導入する準備のない組織の場合も、即時のインパクトが期待される機能をアップグレードすることで、高度な防御策や修復機能を利用できます。

ENS の行動分析では、外観だけではなく行動に着目します。攻撃者が外観を覆い隠そうとしても、悪意のある行動は隠せません。ENS はこうした行動から脅威を検出します。また、アプリケーションの動的隔離の機能も備えています。不審なファイルやプロセスをエンドポイント上で封じ込めて、組織のシステムが侵害を受ける前に脅威を阻止します。さらに、修復機能の強化により、ランサムウェアの影響を受けたシステムを既知の正常な状態に回復することができます。これにより、時間のかかるシステムの再イメージ化は必要なくなります。

こうした高度な機能を活用することで、セキュリティ ツールを重層的に導入する必要はなくなり、コストやアラートが不必要に増えることもありません。McAfee のシンプルなエンドポイント プラットフォームは、AI を活用した調査や機械学習を通じて、業界をリードする、将来を見据えたシステムの構築をサポートします。



検出 高度な脅威の検出を最大 60% 拡大



自動高度修復機能により、再イメージ化や手動によるリカバリとは無縁に

3. 可視性をさらに進める

脅威の調査では時間が勝負です。複数のソースやコンソールからのデータを組み合わせたり、アラートの調査を実施したりする間に、脆弱性の範囲を広げかねません。MVISION ePO は、高い可視性、IT 部門の生産性向上、シンプルなオペレーション、セキュリティの強化とコストの削減を実現することから、ENS と ePO を組み合わせることで、こうした負担を解消できます。MVISION ePO を通じて、エラーの発生を抑えて、一括管理されたインターフェースを通じた効率的なセキュリティ管理も実現できます。さらに、データ視覚化ツールを用いて重大度に応じた脅威の優先順位が得られることから、さらにノイズはカットされ、脅威の迅速なドリルダウンが可能になります。

ENS にアップグレードするもう 1 つの利点は、組織の環境全体を継続的に監視することができる MVISION EDR の配備が可能になることです。AI を活用したこのユニークなツールは、アラート対応疲れを防止するだけでなく、脅威の調査時間を数時間から数分へと短縮させます。

さらに、ENS により MVISION Insights との連携も可能になります。これにより、プロアクティブで実行可能なインテリジェンスが管理者に提供され、管理者はリアクティブな対応から、プロアクティブなエンドポイントのハードニングへとシフトし、世界のどこかで新しい脅威が出現すれば、ただちに 대응することが可能になります。

業界アナリストは、多くの組織が McAfee を使い続ける理由として、McAfee ENS と ePO ソフトウェアの存在を挙げています。



調査は数時間から数分へシフト



インシデント応答時間は 83% 以上短縮¹



MITRE ATT&CK フレームワークに連携させたデータ

4. 効率性をさらに高める

管理者、ユーザー、エンドポイントのいずれも、複雑な環境により動きが妨げられます。しかし、単一のプラットフォームとエージェントにより複数の防御策を配備して管理できる ENS を使えば、組織の負担は軽減され、重要な業務に集中できるようになります。複数のポイント製品に代わる単一の管理コンソールを使用することで、組織の機能は統合され、ポリシーの管理に必要な時間も節約できます。

McAfee のプラットフォームは、将来、追加的なソリューションを簡単に追加できるように設計されています。このため、サイロ化されたポイント製品を次々に配備して維持する必要はありません。



34%

速いユーザーインターフェース



48%

速いインストール時間



50%

CPU メモリ使用率は最大 50% 向上



8 分

修正時間を平均 8 分までに削減



50%

使用プロセスを 50% 低減

効率性は、効果的な調査につながり、スキャンにかかる時間は、組織の環境により数分から数秒にまで短縮されます。

5. ピアが推薦するもの

セキュリティベンダーはいずれも自社製品の購入を勧め、またその価値をそれぞれに信じています。McAfee では、実際に当社の製品を導入して使用しているユーザーのフィードバックを検討することが、ENS の価値を判断する参考になると考えています。

ENS は最新のリリースとともにその配備の件数が拡大し、エンドポイント数にして毎月 100 万件を超える勢いで増えています。McAfee のお客様は、ENS をマルチフォームファクターに対応させ、ATM / POS エンドポイントや各業界の管理システム環境、従来型のエンドユーザー PC などにインストールしています。

「VSE から ENS への移行は大きな決断でしたが、ePO ソフトウェアのおかげで、エンドポイント上でローカルに行う場合に比べて動作はスムーズです。ePO の移行により、組織のルールは VSE から ENS のフォーマットへ転換し、時間も手間も節約されています」

— 公立大規模学区のエンドポイント管理者

現在配備されているエンドポイント保護策から 40 時間を取り戻すことができれば、なにができるでしょうか。

ホワイトペーパー

結論

現在のエンドポイントセキュリティ対策に負担を感じてクラウドへの移行を検討している場合や、高度なゼロデイ脅威への防御策や応答ツールを求めている McAfee のお客様には、McAfee Endpoint Security の導入をお勧めします。McAfee Endpoint Security は、1つのソフトウェア エージェントを使用して複数の階層の情報源から脅威情報を収集します。単体製品を併用した場合と異なり、重複を排除することができます。その結果、統合されたアプローチを採用することができ、手動で行う脅威の相関付けや重複を避けることができます。

つまり、McAfee は、もっと多くの可視性を、もっと強化された保護を、そして最強のグローバルな脅威インテリジェンスを提供しています。

移行の準備は整いましたか?こちらから始めてください
www.mcafee.com/movetoens。

1. <https://www.mcafee.com/enterprise/en-us/assets/case-studies/cs-california-department-water-resources.pdf>

McAfee について

McAfeeはデバイスからクラウドまでカバーする、サイバーセキュリティ企業です。McAfeeでは、より安全なデジタル世界を構築するため、個々の力を結集し、企業と個人を保護するソリューションを提供しています。McAfeeは他社製品と連携するソリューションを提供することで、お客様企業を脅威から保護し、脅威の検出や修正を連動して行えるような、真に統合されたサイバー環境を構築するサポートをしています。McAfeeの個人向けのソリューションは、すべての種類のデバイスに対応しています。自宅でも外出先でも、安心してデジタルライフを楽しむことができます。McAfeeでは、他のセキュリティ企業との連携を強化し、力を合わせてサイバー犯罪者と戦っています。

www.mcafee.com/jp



〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-12-1
渋谷マークシティ ウエスト20F
www.mcafee.com/jp

McAfeeおよびMcAfeeのロゴは米国法人 McAfee, LLC または米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2020 McAfee, LLC. 4546_0720
2020年7月